



翼竜とニホンイヌワシ その1

さいとう製菓の『翼竜の玉子』と ZOOMO のニホンイヌワシって共通点あるの??そもそも翼竜って??

翼竜とは恐竜の時代に生息していた翼を持ち、空を飛んでいた爬虫類の仲間です。代表的な翼竜はプテラドン。翼を広げると 10m。様々な種類が存在していた翼竜は、優れた能力を持つ優秀なハンターであったと考えられています。

一方、ニホンイヌワシは翼を広げると約 2m、視力は人の8~10 倍であると言われており、地上にいる獲物をはるか上空から見つけられます。動くものを感知する器官がとてもよく発達しているため、遠くにいる獲物の動きも素早く察知し、遠くても近くてもすぐにピントを合わせられるので、はるか上空で見つけた獲物に向けて猛スピードで急降下しても見失うことはありません。さらに太く頑丈な脚は素晴らしい筋肉が備わり握力は 150kgもあると言われています。こちらも優秀なハンターと言えます。



翼竜とニホンイヌワシ その2

翼竜の卵は柔らかく、表面が皮のようだったことがわかっています。卵は湿度の高い地中に産卵し、産み落とした後は一切関与せず卵の世話をしなかったと考えられています。これまでに見つかった若い翼竜の化石から判断して、孵化直後から自分の力だけで生活しており体が小さいだけで、行動は大人と変わりがなく、おそらく孵化してすぐに飛行していたと研究者は伝えています。

ニホンイヌワシは、外敵が近づけないような谷間の切り立った崖の上の方にある岩棚で巣作りをします。普通2つの卵を産み、1つ目の卵を産んですぐにあたためはじめて、5日程ずれて2つ目の卵を産むため、兄弟でも先に孵化した雛のほうの成長が早く、兄弟間闘争が必ず起こると言われています。そのため無事に育つのは1羽だけ。巣立ちするのは孵化して 70~80日。その後親から離れて独立し成鳥まで育つのは 25%ほど。

ニホンイヌワシが繁殖して命を繋ぐのはとても厳しいのです。



翼竜とニホンイヌワシ その3

さいとう製菓の『翼竜の玉子』は、子供たちに向け、大人気の恐竜をテーマに、幾多の挑戦や失敗を繰り返した創業時代の想いを重ね、好奇心や夢を詰め込んで開発した商品です。チョコ餡の中心にチョコクリームを入れココア味のカステラ生地で包み、たまごの化石に見立てました。

盛岡市動物公園 ZOOMO ではこの『翼竜の玉子』を寄付付き商品として特別販売し、ニホンイヌワシの飼育環境改善、保全に役立てる目的で取り扱うことになりました。

『翼竜の玉子』を通して、さいとう製菓と盛岡市動物公園 ZOOMO の双方の魅力を広く発信しながら、陸の生き物の豊かさを守るという SDGsにつなげ、岩手の自然環境を守り、野生のニホンイヌワシを守りたいと思う【心のたまご】を育てます。